

平成30年度 第2回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 平成30年11月29日(木)
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザ コムコム 大研修室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時00分 閉会：午後2時53分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
＜北秋田市教育委員会＞
教育長 佐藤 昭洋
委員 永井 高道
委員 佐藤 正俊
委員 蒔苗 隆
委員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 ＜教育委員会事務局＞
教育次長 小笠原 吉明
総務課長 金澤 聡志
学校教育課長 小林 秀雄
生涯学習課長 長岐 孝生
スポーツ振興課長 藤野 義則
総務課総務係長(書記) 三澤 照美
7. 案件 (1) 平成30年度主要教育施策の実施状況(上半期)及び
平成31年度における教育に関する重点施策について
(2) 意見交換

8. 会議録

小笠原教育次長	<p>ただいまから、平成30年度第2回北秋田市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>はじめに、津谷市長から御挨拶をお願いします。</p>
津谷市長	<p>皆様お疲れ様でございます。</p> <p>教育委員の皆様には、大変お忙しい中にもかかわらず、御出席いただきまして誠にありがとうございました。平成30年度第2回目の北秋田市総合教育会議に当たり、皆様方に日頃の教育行政の推進につきまして、大変御尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。</p> <p>今年度の第1回総合教育会議におきましては、スポーツ大綱の策定並びに教育施策等につきまして、委員の皆様から活発な御意見をいただきありがとうございました。今回から蒔苗委員をお迎えいたして初めての総合教育会議となりますが、蒔苗委員からも専門的な視点からの御意見を伺えれば大変ありがたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、7月には伊勢堂岱遺跡を含む北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群が文化審議会の国内推薦候補となりました。大変期待をしたところでありましたが、残念ながら平成30年度は世界文化遺産委員会に推薦されませんでしたけれども、菅内閣官房長官からは甲乙つけがたいと高い評価をいただいております。今日の午後は男鹿のナマハゲが無形文化遺産登録にと話題になっておりましたが、2021年の世界文化遺産登録を目指して、活発な活動を続けてまいりたいと思います。</p> <p>また、10月18日には国立市と友好交流都市協定を締結しておりまして、それに先駆けて国立市教育委員会の教育長外、教育委員の2名と事務局職員2名が、市内の小・中学校と合川学童研修センター等を視察しております。今月には当市の小・中学校の教職員6名と事務局職員2名が国立市の先進校視察を行っており、今後も教育、文化など様々な交流を図りたいと考えております。</p> <p>今日の会議は、今年度の各種事業の進捗状況と、来年度の重点施策が議題となっておりますが、皆様から貴重な御意見を賜りますようお願い申し上げます。開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。</p> <p>今日はよろしく申し上げます。</p>
小笠原教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、佐藤教育長より御挨拶をお願いします。</p>
佐藤教育長	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>連日、学校訪問や会議等への出席ありがとうございます。第2回目の総合教</p>

佐藤教育長	<p>育会議を前に、私から1回目以降の主な動きについて報告いたします。</p> <p>総務課関係で特筆すべき取組は、あきたリフレッシュ学園事業についてです。今年度の利用者数は18人となっており、そのうち市内の児童生徒は9人が利用しております。この取組について、文部科学省が発行している『教育委員会月報12月号』の「地方発！我が教育委員会の取組」という特集に、「不登校児童生徒の学校復帰率約80% ～宿泊型公立フリースクールの取組～」と題して、約4ページにわたって紹介されることになりました。平成20年度から本市で取り組んできた実践が、いよいよ全国にも発信されることになりました。今年度は、中学校全国トップクラスの福井県教育庁学力向上グループの職員を始めとして、県内外の議会議員等たくさんの団体が視察に来ておりますが、全国の教育関係者に本市の取組が広く広報される運びとなりましたので、今後一層の充実した取組を展開したいと考えております。</p> <p>県教委と連携して3年目となる教育留学推進事業については、「短期チャレンジ留学I」を、首都圏を中心に33名の小・中学生の参加を得て、8月24日から29日までの5泊6日の日程で開催しました。森吉山登山や、川遊びなどの自然体験活動を行うとともに、2日間にわたり合川小・中学校で、市内の子どもたちと一緒に授業も体験しました。長期留学には、8名の児童生徒が参加しており、2名が4月から継続して約8か月間の利用、4名が期間を更新して利用しています。新たに1名の児童から申出を受けております。</p> <p>学校教育課関係では、4月17日に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されましたが、国語と算数・数学に係る本市の状況は、小学校6年生、中学校3年生ともに全ての種目で全国の平均正答率を上回っており、今年度も引き続き大変良好な状況であると捉えております。鳥取県教育委員会事務局小中学校課長を始めとし、タイ王国や国立市など、県外からの教育視察も受け入れています。10月29日から市内全ての小・中学校を教育委員学校訪問として訪問し、全ての学級の授業を視察していますが、新しい学習指導要領に打ち出された深い学びが、たくさんの授業で見ることができるとともに、地域をベースとした「ふるさと教育」や「キャリア教育」が展開されており、高いレベルの学校経営が実践されていることを実感することができました。</p> <p>部活動での活躍も目覚ましく、夏の全国大会での合川中学校相撲部団体3位、森吉中学校ソフトテニス部男子団体3位を始めとして、全県中学校駅伝大会の鷹巣中学校女子6連覇、県中学校秋季大会では野球大会で森吉中学校初優勝、同じく森吉中学校ソフトテニス男子団体優勝など、輝かしい成績を収めました。秋田県吹奏楽コンクールでは、森吉中学校が小編成の部で金賞、阿仁中と合川中が上小阿仁中と合同の部へ出場し金賞、また、秋田県学校関係緑化コンクールにおいて、学校林等活動の部で鷹巣南小学校が県緑化推進委員会会長賞、学校環境緑化の部で鷹巣南中学校が知事賞を受賞するなど、多方面での活躍が見られました。</p> <p>生涯学習課では、各事業が順調に実施されておりますが、今年度の特筆すべ</p>
-------	--

佐藤教育長	<p>き取組は、市文化祭と産業祭の同日開催でした。展示部門を「ふれあいプラザコムコム」で開催したことにより実現できたもので、市民の皆さんの力作が、体育館に展示した時よりも、一層引き立つものとなりました。何より、展示部門のコムコムへは、昨年の約2倍となる3,200人もの方々にお出でいただき、展示・演示両部門によるアンケートでは、約82%の方々が同日開催に肯定的な意向を示してくれています。同日開催により会場が3つに分散しましたが、シャトルバスの運行により、市民の利便性も確保できたと捉えております。</p> <p>スポーツ振興課では、「第5回秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！鹿角大会」が台風25号の影響で中止となりましたが、そのほかの事業については順調に実施できました。</p> <p>結びになりますが、教育委員会では、本市の未来を担う児童生徒の育成、市民の皆さんの生きがいをづくりの生涯学習や生涯スポーツ、競技スポーツへの取組など、広い視点で事業を展開しております。私たちの取組が、人づくり・地域づくりに一層効果的に働くよう、来年度の方針性について忌憚のない御意見をいただけるよう、よろしく願いいたします。</p>
小笠原教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速、案件に入らせていただきます。</p> <p>「北秋田市総合教育会議運営要綱」により、議長は市長が行うことになっておりますので、この後の進行につきましては津谷市長にお願いしたいと思います。津谷市長よろしく申し上げます。</p>
津谷市長	<p>暫時議長を務めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは案件に入らせていただきます。案件（1）平成30年度主要教育施策の実施状況と平成31年度における教育に関する重点施策について、事務局から説明をお願いします。</p>
金澤総務課長	<p>< 案件（1）説明 ></p>
津谷市長	<p>それでは、資料に沿って、各担当課長から教育大綱区分と重点目標ごとに説明をお願いしたいと思います。では、学校教育編からお願いします。</p>
小林学校教育課長	<p>< 学校教育編 説明 > *一部総務課長説明</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。ただ今説明のありました学校教育編につきまして、御意見や御質問があればお伺いいたします。</p>
佐藤委員	<p>出退勤管理システムについて、もう一度詳しく教えてください。</p>

小林学校教育課長	<p>出退勤管理システムは、現在検討中ですが、想定しているものは、各校に1台出退勤時刻を打刻するための機械があり、先生たちが一人1枚カードを持っていて、それをかざすことによって出勤と退勤の時間を記録していくというものです。</p> <p>現段階でどうやっているかという、各自が紙に書いたりパソコンに打ったりして、それを主に教頭先生がまとめて、1か月のうちどのくらいの時間外勤務をしているのかというようなことを管理していますが、そうすると教頭先生の用務が非常に増えることもあって、カードで管理していくシステムです。</p>
佐藤委員	<p>タイムカードのようなものですか。</p>
小林学校教育課長	<p>タイムカードみたいなものですが、タイムカードもある程度まとめた上で、パソコンに記録を入力していかなければならないのですが、出退勤システムを導入するとカードをかざした段階で管理職のパソコンに記録されます。課題になっているのは、今まで一月ごとにしかまとめていなかったものが、1週間の時間外勤務のマックスを設定することによって、一人の先生が既に何時間働いていて、体調的に危ないというようなことのウォーニングが出る。学校の忙しい時期は割りとは決まっているので、例えば中学校であれば郡市総体の前に遅くまで残っている、学校祭の前に一人の先生に仕事が集中しているという際にも、管理職が見て組織で対応するところにもっていきたいというのが導入の主旨です。</p>
佐藤委員	<p>分かりましたが、管理されているという気持ちにはならないものかなと。</p>
小林学校教育課長	<p>現段階でも、早く帰っている先生はほぼおらず、毎月教育委員会にも報告していただいています。遅くまで残っていて、厚労省の過労死ライン寸前だったり、超えていたりしていますので、それをシステムで管理していく。また、学校だけでなく教育委員会でも見ることができるので、忘れていたりしていた時には教育委員会からも助言ができるよさがあります。</p>
蒔苗委員	<p>医者の世界でも長時間労働はかなり問題になっていますが、勤務時間だけでなく内容がどうかというのが一番問題で、仕事としてやっている場合と、自己研修や勉強するためにやっている場合と一緒にできないと思います。</p> <p>それと、だからどうすればいいのか考えておかないと、せっかくデータを取ったとしても、倒れる前に処置することができないのではないかと思います。対策も考えているのかどうかですね。</p>
小林学校教育課長	<p>まずは実質的な時間をしっかり捉えることが前提だと考えています。時間が長くなった時には各校の管理職が声をかける。内容が仕事でやるべき内容では</p>

小林学校教育課長	<p>なかった時には指導していくという流れになると思います。これから先、ベテラン層の先生方がどんどん定年退職していきます。4、5年で一気に教員の平均年齢が下がるものと考えられます。そうなった時に、時間の使い方等についても管理職の方で気を配っていただくことが大切だと考えています。</p>
藤本委員	<p>先生方が新しく I Dカードを持つイメージですか。それとも共通の職員コードを持っていてカードがないと番号を入れるとか。</p>
小林学校教育課長	<p>まだ予算をお願いしている段階なのですが、イメージとしては新しい I Cカードをそれぞれの先生に用意して、今でも学校では出勤簿に印鑑を押していますので、併せてカードをピツとしてもらおうと思っています。そしてカードは学校に置いていくというイメージです。</p>
藤本委員	<p>前の職場では一人一人がカードをいつも持っていて建物に入る、また今の職場はパソコンにログインするとそれが記録されて、ログオフした時間がチェックされるというところもありますが、印鑑と併せてということですね。</p>
津谷市長	<p>よろしいですか。</p>
藤本委員	<p>はい。</p>
佐藤教育長	<p>行政の場合は、朝来るとパソコンを開きますが、どちらかというと学校では、まず学級に行くとかあいさつ運動に行くとかといった場合があります。パソコンを開いて管理できればいいと私も思っていたのですが、現実的には現状にそぐわないので、課長が提案したような方が具体的かなと考えています。</p>
津谷市長	<p>その I Cカードは、かざすとすれば全員共通の機械ですね。</p>
小林学校教育課長	<p>各校に1台を考えていて、パソコンのログインできるメーカーもありましたが、特に小学校だと出勤したとたんに職員室に子どもが来たりするので、ログインよりも児童を優先することが教員の仕事なのかなと。</p>
佐藤教育長	<p>蒔苗委員、教職員も自分のための研修は仕事に直結するので、子どもに教えるために勉強していくといったところで、自分のための何か別な事は、学校の中では想定されないのが現状です。学校にいる時間はほとんど子どもに関わる仕事に繋がっていることが多いと思っています。</p> <p>ですから、時間の短い人を管理するのではなく、長くいる人の健康を害さないようにアドバイスしたり、仕事を分担するためにシステムが必要になってくるのかと感じています。</p>

津谷市長	例えば、時間が長いと管理職から言われている先生で、先に退出しておいで、サービス残業のように残って仕事をするようなケースは考えられますか。
小林学校教育課長	考えられると思いますが、他の職種と違うのは、教員は時間外をしても残業手当は存在しません。先生方の勤務時間、特に帰りの時間については、今まであまり目が行き届かなかったのですが、マスコミ等で言われたように、過労死で亡くなる方が全国にたくさん出てきている中で、多忙化防止の施策を取るべきという声が上がってきており、市教委でも先生方の健康について、目を配る必要があることで新規事業の提案です。
佐藤教育長	今のシステムは、県内の市町村ではほとんどやっていない中で運用しようとしているので、市教委でこのシステム導入に向けて動くことで、北秋田市の学校に勤めたいという先生方の思いが高まってくれば、市の子どもたちのためになるかと思っています。
佐藤委員	大変ありがたいなと思います。手落ちのないようにしっかり計画されて進めてほしいと思います。
津谷市長	ほかにございませんか。 ないようであれば、次に生涯学習編の説明をお願いします。
長岐生涯学習課長	< 生涯学習編 説明 >
津谷市長	ありがとうございました。 生涯学習編に御意見や御質問はございませんでしょうか。
永井委員	いつかは確認出来なくなりましたが、秋田さきがけ新報に、縄文館等を見学に行った際に、ガイドが十分に対応してくれなかったと。山内丸山遺跡等では終日のような感じで応接してもらったので、いろいろなPR活動も大切だけれども、学芸員などの対策も充実させるべきではないかといった投稿があったんですね。それなりには対応はしているのですが、生涯学習課としてはどうですか。
長岐生涯学習課長	その時には、ガイドが不在で案内してもらえなかったという面が強調されて掲載されたものと思われます。基本的に、団体や予約をしていただいた方であればガイドを配置しますが、ガイドが高齢化してきているので、毎日、毎週というのは厳しい状態です。今、我々職員も含めて、新しいガイドを募集して学習会をしているところです。ジュニアボランティアガイドは、夏休みや連休の限定になってしまうので、それを期待して来られる方もおりますが、小・中学

長岐生涯学習課長	<p>生でするのでその期間だけ対応させてもらっている状況です。</p> <p>学芸員については人事に関わるのですが、今年から浜辺の歌音楽館には学芸員を配置していただいて充実してきておりますので、遺跡と文化、そして伝承館やマタギなどについても学芸員がいればいいのかとは感じています。</p>
永井委員	<p>学芸員とはいかなくても、少なくともガイドなどで対応できない場合には、常館している職員がすぐに対応できるような状況を作っておかなければならないのではないかと思います。ほとんどが専門家でなくてもいいのですから。その情熱を求めている投稿ではなかったかと思います。</p>
津谷市長	<p>生涯学習課長が先頭になって、市職員のボランティアガイドを募集して、ガイドができるようになってほしいと一生懸命になっています。ただ、予約があつて、来ることが分かっているならば、派遣することもできるでしょうけれども、なかなかできない状態です。縄文館にいる方は職員ではないのですが、永井委員が言われたように、せっかくそこにいるのであれば勉強していただいて、わざわざ遠くから来て下さった方に熱意が伝わるような対応ができればと、新聞記事を読みながら少し残念だったなと思いました。将来的には学芸員のような形で育て上げていくにしても、世界遺産登録を目指している時ですので、一人一人がそういう気持ちを持って督励し合うような事をしていただければありがたいと思います。結論めいたことを進行役が言ってしまいましたが。</p>
佐藤教育長	<p>ちなみに先日のガイドの講習会に、ワーキンググループ以外の人はどれくらい参加しましたか。</p>
長岐生涯学習課長	<p>一般の方で2名、当日2名欠席しましたが職員が7名の参加でした。</p>
津谷市長	<p>ほかにございませんか。</p>
藤本委員	<p>放課後児童クラブには大変お世話になっています。来年度新しく建てられるそうですけれども、お世話になっている児童クラブでは、子どもたちの下足棚に長靴を寝せないと入りません。新しい児童クラブでは、ぜひ各児童クラブから情報を集めて、使いやすい館を造っていただきたいと思います。</p>
長岐生涯学習課長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
津谷市長	<p>貴重な御指摘ありがとうございました。ほかにございませんか。</p>
藤本委員	<p>今まで浜辺の歌音楽祭を午前中しか拝見したことがなくて、今回初めて午後の部も見させていただいて、中学生の迫力ある歌声や、大人の熟成された歌声</p>

藤本委員	<p>を堪能させていただきました。その中で、ゲストの方が最後に講評してくださいましたが、客席にほとんど人がいなくて、せっかく小学生の歌声を褒めてくださっているのに関係の方とかもいらっしゃらなくて、時間があって（バスの送迎時間等の関係で）皆さんお帰りになるのですけれど、あの状態であれば講師の方に申し訳ないなと思ったり、講評があるのであれば周知するとか、たくさんの方に聞いていただきたかったと思ったりしました。</p>
津谷市長	<p>教育委員会だけではなくて市長部局もそうですが、イベントなどの情報発信が下手だとよく言われています。特に新聞などに掲載される北秋田市の情報が少ないと指摘される方もいらっしゃるので、そういう情報を集めて、できるだけ発信できるように我々も肝に銘じていきたいと思っています。</p> <p>ほかにございませんか。</p>
佐藤委員	<p>長岐邸の屋根がきれいになって、とても立派になったと思いました。もうそろそろ冬囲いの時期になりましたが、せっかくの古い立派な建物に、ビニールシートで雪囲いをしているというのは、文化財を大事にする雪囲いの仕方ではなかったように思います。道路からよく見える所なので、できれば少しお金をかけても、工夫されたらどうかと感じました。</p> <p>もう1点は、アウトドア、自然を相手にする教育について。私達の地域にあってはとても恵まれています。川遊び、アウトドア料理、自然体験。どうかこれを大事にして、たくさん子どもたちが体験できるような地域づくり、環境づくりをしてほしいと思います。大自然を生かしたふるさと教育は、マタギの地恵体験にも結び付いていきますので、生涯学習課の方から良い方向に進めてほしいと感じています。</p>
生涯学習課長	<p>長岐邸の方は、一昨日前を通ったら冬囲いをしていましたので、最終確認はしていませんが、おそらく同じようにやっているかと思います。マタギの地恵体験は、先日の振り返りの実行委員会で、リフレッシュ学園に2泊3日でずつと詰めるのではなくて、3泊4日で自然体験をしながら、国立市との提携、教育留学も含めて交流して、最後には地域学習をする流れで考えています。</p>
津谷市長	<p>分かりました。</p> <p>蒔苗委員何かございますか。</p>
蒔苗委員	<p>今年は産業祭と文化祭が同時に開催されましたが、私の個人的な意見としては、忙しくて一緒に見るには少し時間が足りない。文化祭を見てから産業祭に行ったら、午後3時頃には片付けが始まっていて、見ないで帰ってきたのですが、一緒に開催して良い面と悪い面があると思うのですが、今後も続けていかれる予定ですか。</p>

長岐生涯学習課長	<p>基本的には、今のところ同日開催で考えてます。シャトルバスが初めての試みだったので、時間や運行の仕方に無駄があったようで反省しております。ただ、文化祭に限れば、展示をコムコムで開催できたことは好評でしたし、文化会館と距離はありましたが、バスをうまく使って効率的に回れば可能かとは思っています。</p>
佐藤教育長	<p>実は今回アンケートを取りまして、産業祭の方は手元に届いていないので分かりませんが、展示と演示のアンケートでは、同日開催にして「よかった」「まあよかった」が70%、「普通」を含むと85%位になります。蒔苗委員の仰るように、時間のうまい使い方を来年の課題にしたいと思っています。時間を工夫していくと2日間の中で楽しめるのかなど。今年に来場者数を見ると、昨年より倍、2日間で3,200人の人が動くということは、産業祭もあつてのことだと感じていますし、反省が出てくると対応を考えていけると思っています。産業祭の方との打合せはしていませんが、来年も同日開催の方が、市民の皆さんに短い時間で楽しんでもらえるかと考えてはいます。</p>
津谷市長	<p>ほかにありますか。</p>
藤本委員	<p>文化祭の表彰が終わってからの招待演奏も聴かせてもらいましたが、浜辺の歌音楽祭では子どもたちもプロの演奏を聴く、という感じなのですが、文化祭は踊りやサークルの発表を見に来るイメージがあつて、クラシックっぽい本格的な方の演奏があると、聞く側のマナーが少し気になります。文化祭では手拍子したり、声を出しても大丈夫のような演目が相応しいのかなと感じました。</p>
長岐生涯学習課長	<p>そういうマナーは浸透していないかもしれません。</p>
津谷市長	<p>それでは、生涯学習編はこれまでにしまして、次のスポーツ振興編について説明をお願いします。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>< スポーツ振興編 説明 ></p>
津谷市長	<p>ただ今説明のありましたスポーツ振興編について、御意見、御質問はございませんか。</p>
佐藤委員	<p>スポーツ指導者の育成については、一昨年より検討していただきありがとうございます。少しずつ前には進んでいるものの、どうするかということが出てこないで、運動・スポーツ指導者の育成に絡めて、施設の活用を考えてほしい。例えば、全天候型の競技場を使って、箱根駅伝を走った人を講師に楽しく走る講座、100キロマラソンが近くなったら走破するための方法など、ス</p>

佐藤委員	<p>ポーツ振興課の方で気軽に楽しめる講座を作って呼びかけしていかないと無理かなと思います。アイデアを出して工夫してほしいと思います。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>佐藤委員の仰ったとおり、課内で検討を進めております。ただ、市の職員を講師にすると、所属の長への依頼が必要になりますし、健康推進担当、生涯学習課とも連携していかなければならないので、どう進めるか、縦割りにならないようにうまく予算を使えるなら大きな取組にしていこうと話しておりますので、もう少しお時間をください。</p>
佐藤委員	<p>あまり大きくしてしまうと難しくなるので、大きくしないでやればいいのかと思います。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>100キロマラソンについては、国立市の教育委員の皆さんが来た時に、大会に招待をと話題になったのですが、予算の面もあって保留になっています。体協とのスポーツ交流会についても、早くから国立市から連絡があった訳ですが、体協同士で交流するという事ですので、課としては口を挟みにくい状況です。</p>
津谷市長	<p>佐藤委員が言われたのは、100キロを走ることさることながら、一般のランニングやジョギングに関心を持っている人に、100キロを走った人や箱根駅伝に出た選手を講師にしながら、気軽に少しずつ実行していけばいいのかなと、話を伺いながら感じましたので検討してください。</p> <p>ほかにございませんか。</p>
藤本委員	<p>高齢者スポーツということで、高齢者のドライバーも増えておりますので、認知や反射能力などを絡めて、必ずしも大きくスポーツではなくても、講座などがあればいいのかと思ったところです。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>そちらですと交通安全対策協議会で生活課、あるいは高齢福祉課、福祉課が担当になりますが、連携していければと思います。</p>
津谷市長	<p>ほかにございますか。</p> <p>スポーツ編は以上といたしますが、この後、意見交換の時間を設けますのでその時をお願いします。</p> <p>それぞれの案件について皆様から御意見をたくさんいただきました。実施状況や来年度の重点施策を確認していただきましたので、今後とも取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>続いて(2)意見交換に入らせていただきます。これまでのことを含めてでもよろしいですし、特にテーマを限定しないで、北秋田市の教育全般について</p>

津谷市長	<p>教育委員の皆様から御意見なり御提言をいただければありがたいと思いますの よろしくお願ひします。</p>
永井委員	<p>いろいろな事業を展開するときに、予算が伴わなければその目的は達成でき ないと思っています。生涯学習課に関連して、今まで縄文館の入館料を取って いたのが、来年の3月までは無料になる。浜辺の歌音楽館もしかり。ある程度 の入館料があったものが無くなるということは、どこかで補充する対応をしな ければなりません。入館者にとって無料であるということは、プラスに作用す る面もあるのだとは思いますが、私としてはある程度、例えば寄付のような形 で、募る働きを行政サイドからしてもいいのではと思います。北秋田市に対し てそのような気持ちを持っている人は結構いるのではと思うので。</p> <p>入館料があっても、結構リピーターが来ているような施設もある訳です から、そういう工夫があったり、入館したときに皆さんの志がどういように使 われたのか報告していくと、寄付したけれども使われ方が分からないというこ ともなくなります。事業はどんどん増えるけれども、バックとなる予算をどう するのかも少し考えていかなければならないと思います。</p> <p>縄文館が整備されると、中で展示するものは限られてきます。ストックされ ているものをどのように展示していくかという、大湯のように展示室を増設 していかないと、見学者の要望には応えられないことは目に見えています。そ れを造るとすればかなりのお金を必要とする。そういうイメージをもって、少 しずつ考えてもらいたいと思います。そうすると、より充実した展示施設や、 リピーターが増えていくのではないかと考えています。</p>
長岐生涯学習課長	<p>ありがとうございます。確かに事業が進むと同時に、予算は必然的に伴って きます。永井委員が仰ったとおり、担当課との協議も必要になりますが、寄付 やふるさと納税も一つの手段なのかなと思います。</p> <p>また、これからの入館状況によっては、4月から条例見直しを検討して、無 料になっていくかと思われます。入場者が増えることによって、グッズの売上 げも期待できると感じています。縄文館は限りあるスペースですし、現在、旧 合川東小など点在して保管していますので、私個人の構想としては、空き小学 校などを改装して保管と展示ができればいいかなとは考えています。</p>
津谷市長	<p>今、課長も考え方を述べてくれましたが、人が来てくれることによって、経 済活動に繋がりますので、縄文館にしても音楽館にしても、入場料は取らない けれども、記念になる物を購入していただければ少しは返ってくるでしょう し、縄文館の場合は増設というお話もありましたが、あれで一つのコンセプト できていますし、リピーターも増えてきておりますので、展示品を取り替 えるとか、特別展示をして来てもらうのも一つの方法かと思いました。</p> <p>ふるさと納税で、浜辺の歌音楽館に使ってくださいとメッセージを添えてく</p>

津谷市長	<p>ださる方もいらっしゃいますので、入場料は無料ですけれども、快く寄付をしていただくというか、参加していただくという形ができればいいのかなと思っています。後は総合政策課や生涯学習課とどのような形にするか詰めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>ほかにございますか。</p>
藤本委員	<p>今回初めて学校訪問をさせていただいて、北秋田市内のどこの小・中学校に自分の子どもを通わせても安心できるなど実感したところです。</p> <p>今回訪問させていただくことで、各小・中学校のホームページを見させていただきましたが、学校によって活用にはばらつきがあって、最初開いた時の最新のニュースの二つくらいは、どこも新しい活動を載せていてすばらしいと思ったのですが、ほかの所を確認していくと、行事予定が全然入っていないところもあれば、とても細かく載せているところもありました。</p> <p>その中で気になったのは、学校報がそのまま載っていることです。年度初めに学校の方からは子どもの写真を載せてもいいか聞かれており、当然、自分の気持ちからすれば、子どもの活躍が全戸に配られることには子どもたちにも誇らしいことだと思って賛成しますけれども、小学校のあるところでは名前を全部イニシャルにしたり、写真の顔をぼかしたりするところもありましたが、ネット上の学校報が完全にそのまま、昨年度のものも、名前や写真で個人が特定されるものが長く残っているのはどうなのかなと思った学校もありました。写真を見て親として抵抗がないかなと思ったり、活躍を御覧になりたい方もいるだろうと思ったり、自分の中でどちらが正しいのか分からないのですけれども、少し心配な面も全然なくはないのかなと思いました。掲載の仕方も各校様々で、全体として指針があってもいいのかなと思ったところでした。</p>
津谷市長	<p>最近プライバシーの関係や、インターネットなどを経てアップされた写真が広く発信されて悪用されかねないので、顔をぼかしたり名前をイニシャルにしたりとそこまで気を遣っている状況になっているというお話だと思いますが、学校では画像や映像については配慮されているものなのではないでしょうか。</p>
小林学校教育課長	<p>おそらく市全体でというのは、今までなかったのではないかと思います。</p>
津谷市長	<p>市の広報もそうですね。</p>
小林学校教育課長	<p>藤本委員の仰るとおり、年度初めにどこの学校も、広報や学年だよりなどに名前や写真を使ってよいかは確認していることは分かっていますが、ホームページに載せる際の配慮事項については、特に市教委から、少なくとも今年は伝えていることはないのです。具体的な事はこの後対応したいと思います。ちなみに、昨年まで勤めていた学校では、地域の方に配る学校報とホームページに載</p>

小林学校教育課長	<p>せる学校報は違う物を載せていて、地域の方へ配る方は名前を載せていました。心配をしていないし、逆に地域で声を掛けられたりして。ただ、ホームページ用は「3年女子が」とか「副会長が」くらいで留めていたり、画素数を落として掲載していました。学校に任せていた部分があったと、今聞いて反省しましたので、この後すぐに対応したいと思います。</p> <p>ホームページの活用の仕方に関心があるのは、学校規模によって担当する先生のスキルの高さの違いと、複式学級だったりすると一人の先生が担当する校務分掌が多岐に渡っていて、時間が取れないことも背景にはあるかと思えます。ですがどこの学校でもできるように、基本的なベースは北秋田市は全部同じです。あとはコンテンツの更新の部分だと思うので、この後通知を出すなどして、その際にふれたいと思います。</p>
津谷市長	<p>時間も迫ってきましたが、蒔苗委員何かございますか。</p>
蒔苗委員	<p>チャレンジデーのことですが、毎年宣伝的な旗を作ったり、パンフレットを回したりとかはありますが、何のためにやるのかがあまり浸透していない。対抗する市町村がどうやって決まるのか、何故そこを競い合うのかがよく分からなくて、参加をした書類を出すところもどこにあるのかが分からなくて、私は市役所に持って来たのですが、結局は守衛さんに渡して投票して下さいとお願いしました。目的と投票する方法を周知してもらいたいと思います。</p>
津谷市長	<p>チャレンジデー実行委員会の会長としては、PRが不足しているのは否めないところですが、もともと笹川スポーツ財団から始まって、小野清子先生が秋田県は全市町村が参加しようと呼びかけて、お互いに1日15分身体を動かすことを定着させるためのきっかけとしてゲーム性を持たせたものです。</p> <p>ただ、職員も含めて、私たちも頑張っているわりには、今一つ浸透していない部分があって、委員会の反省の時にも出ますので、もう少し分かりやすくやるように頑張っています。</p> <p>ほかにもございますか。</p>
永井委員	<p>余計な事ですが、坊沢地区の場合はずっとよくなりました。皆さんの頑張りが反映されています。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>ちなみに対戦相手ですが、参加を申し込んだ市町村の категория が分かれた段階で、コンピュータで選んで対戦相手が決まる仕組みになっています。</p>

津谷市長	<p>よろしいでしょうか。それでは意見交換はここまでとさせていただきます。貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今日の案件は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたしますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
小笠原教育次長	<p>市長、進行ありがとうございました。</p> <p>次第の5番その他に入ります。その他、事務局からは特別ございませんが、皆様の方から何かございますか。</p> <p>ないようであれば、これをもちまして平成30年度第2回北秋田市総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。</p>

(午後2時53分 閉会)